

富山市津波ハザードマップ

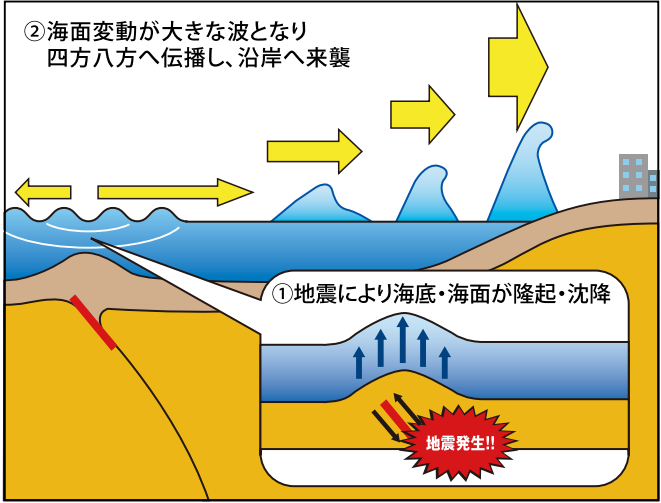
この富山市津波ハザードマップは、津波による浸水が想定される範囲の全体図を掲載しています。自宅周辺などの地区詳細図とあわせてご確認ください。津波は、いつ発生するかわからない災害です。津波が起こった場合に備えて、勤務先や学校などからの避難先や家族との連絡手段などを決めておきましょう。

全体図

津波について

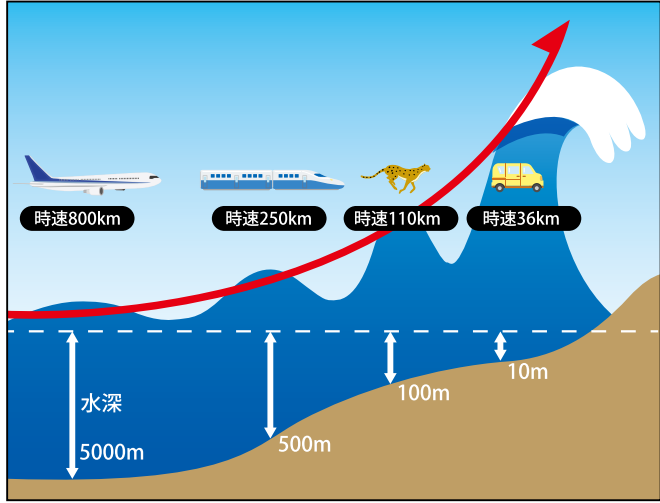
津波が起こるしくみ

海底下で大きな地震が発生すると、断層運動により海底が隆起もしくは沈降します。これに伴って海面が変動し、大きな波となって伝わるものが津波です。地震を発生させた地下の断層の傾きや方向、さらに津波が発生した場所と海岸との位置関係によっては、潮が引くことなく最初に大きな波が海岸に押し寄せる場合もあります。津波は引き波で始めるとは限らないので注意しましょう。



津波の伝わる速さと高さ

津波は、水深が深いほど速く伝わる性質があります。水深が浅くなるほど速度が遅くなるため、陸地に近づくにつれて後から来る津波が前の津波に追いつき、波高が高くなります。水深が浅いところで遅くなるといっても、人が走って逃げ切れるものではありません。海岸付近で地震の揺れを感じたり、津波警報が発表されたら、実際に津波が見えなくても、速やかに避難しましょう。



30cmの津波でも危険

津波は、海底から海面までの海水全体が動くエネルギーの大きな波であり、風が吹くことによって海面付近の海水が動く現象である「波浪」と違います。津波が高くなってくると、それにつれて海水全体の動きも大きくなり、高さ0.2～0.3m程度の津波でも人は速い流れに巻き込まれてしまうおそれがあり危険です。0.2m以上の津波が発表された場合は、津波注意報が発令されますので、海から上がって速やかに海岸から離れてください。



津波の歴史（富山県）

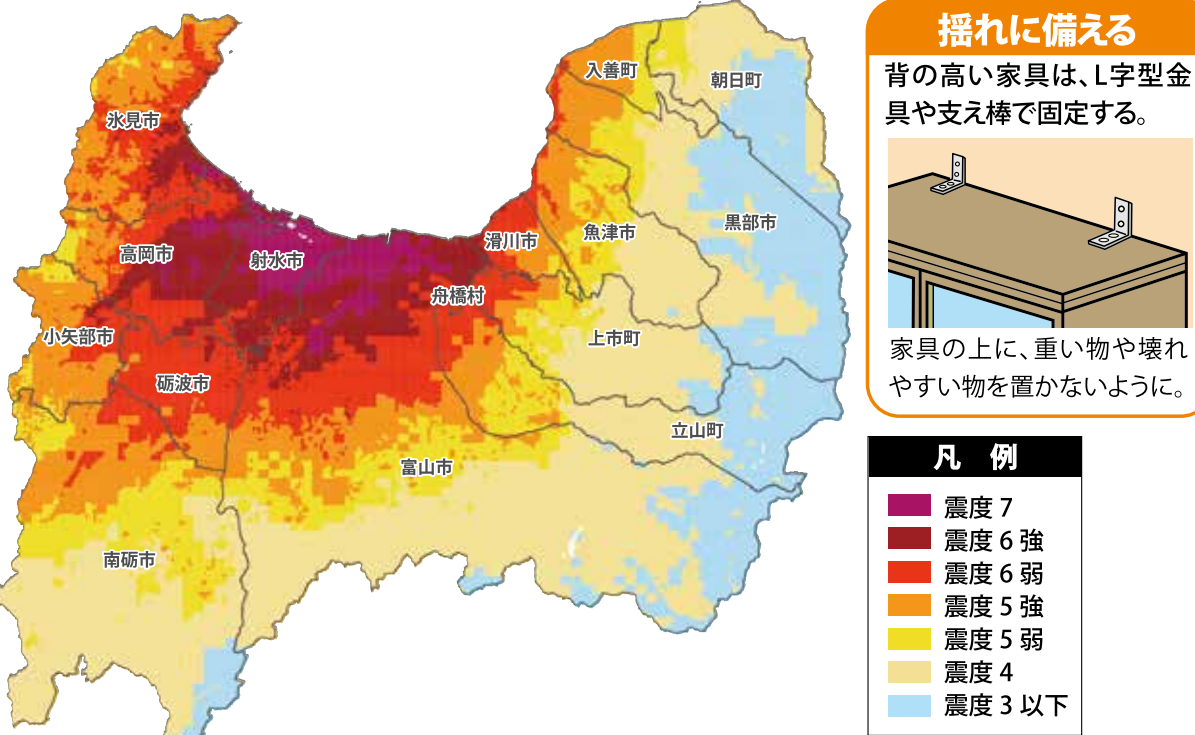
過去に富山県に襲来した津波は、以下のとおりです。根拠のない憶測や迷信ではなく、正しく津波に備えましょう。

天保4年（1833年）	山形県沖地震（M7.8）
津波の記録 氷見 2m	
昭和39年（1964年）	新潟地震（M7.5）
津波の記録 伏木 60cm、魚津 56cm、富山 48cm、富山新港 44cm	
昭和58年（1983年）	日本海中部地震（M7.7）
津波の記録 滑川 43cm、富山 20cm、高岡 19cm、新湊 17cm	
平成5年（1993年）	北海道南西沖地震（M7.8）
津波の記録 富山新港 11cm、伏木港 11cm、富山 10cm	
出典：東北大学災害科学国際研究所等（津波痕跡データベース）	
令和6年（2024年）	令和6年能登半島地震（M7.6）
津波観測値 富山79cm	

出典：気象庁

地震にも注意

津波は、地震によって発生します。富山市では、呉羽山断層帯地震による最大震度は震度7と想定されています。津波だけではなく、地震による揺れにも備える必要があります。



出典：地震調査研究推進本部地震調査委員会（全国地震動予測地図）

浸水想定区域

「浸水想定区域」とは、最大クラスの津波によって浸水が想定される区域及び水深を示しています。地図上の浸水想定区域は、堤外地を除いて津波災害警戒区域に指定されており、基準水位が設定されています。詳しくは富山県公式ホームページ（土木部河川課）をご確認ください。



凡例

防災関連施設

- 津波の指定緊急避難場所
- 市指定避難所
- 市指定避難所 (状況によって利用できない場合があります)
- 近隣市指定緊急避難場所
- 病院
- 警察署・交番・駐在所
- 消防署・消防分団
- 郵便局

津波に関する情報

避難対象地域
最大クラスの津波による浸水状況を考慮して設定した避難が必要な地域

避難方向
津波発生時に逃げる方向

最大浸水深 (法に基づくもの)

- 3.0m以上
2階の軒下まで浸水する
- 1.0～3.0m
1階の軒下まで浸水する
- 0.5～1.0m
床上浸水
- 0.3～0.5m
床下浸水
- 0.3m未満

「最大浸水深 (法に基づくもの)」とは、「津波防災地域づくりに関する法律」により指定された断層による津波の最大浸水深を表しています。

参考情報

□ □ □ 呉羽山断層帯の位置

出典：富山市（呉羽山断層帯の位置に関する調査結果）

浸水開始時間

「浸水開始時間」とは、地震発生から浸水するまでの時間を表しています。

